



XF16-55mmF2.8 R LM WR
定価17万4960円

写真を撮影するとき、逆光という条件を無意識に避けてしまいがちではありませんか？ そう、それはゴーストやフレアー、あるいは黒くつぶれたりロクなことがないからなんです。どうです X-H1のアドバンスフィルターモード「ダイナミックトーン」とXF16-55mm F2.8 R LM WRの組み合わせは、光源を画面に入れて最小絞りまで絞ることにより光条がキラキラ感を出してくれるのですが、これがキレイに決まるのはいいレンズなんです。



シャッター速度 1/160秒
絞り F22
撮影感度 ISO200
アドバンスフィルターモード ダイナミックトーン



XF56mm F1.2 R APD
定価22万2480円

朝早くから豆腐を仕込むお豆腐屋さんを取材。ガチャついた俗的なカットではなく、こういう落ち着いた格調高めシーンに必要なのはしっとりとした色調と、人の息遣いが伝わる立体感のある描写。新しく搭載されたフィルムシミュレーション「ETERNA」は落ち着いた色調とやや寒色系に振られた仕上がりがこういったケースにはぴったり。あとはボケ味で語るXF56mm F1.2 R APDにお任せ。



シャッター速度 1/170秒
絞り F1.4
撮影感度 ISO320
フィルムシミュレーション ETERNA

こ
ん

電子写真機戀愛

Xシリーズ最高最強の

パフォーマンス! X-H1 登場!

第三
夜

な
み

なさん、プロの写真家がカメラを選ぶ理由が気になることはありませんか？

まず、報道系のカメラマンはあの2大メーカーが雌雄を分けております。これまでずっとそうやってきたのでこれからもしばらくはこのままかと思えます。なんつってもガチャガチャした現場で取材撮影をしますので機材を壊した場合のメンテナンス体制やカメラ自体の頑丈さなどが最重要。カメラマン団子の中からでてきたらストロボが根元からもげてプラン……なんてのを日夜ガチでやってるそうです。くわばらくわばら。

で、映像系も手掛ける作家的な写真家はムービー撮影機能などが充実した動画に強いパナソニックやソニーから選ぶというケースもあるそうです。またアクの強めの写真家が、ペンタックスやオリンパス、もしくはあらゆる機種に手を出しゴニョゴニョしてるとも聞いてます。ま、あたしもちょっと変わったアレな性癖でやたら魚眼レンズを多用したりしますのでヒトのこと言えませんが。

……すると日本写真界の良心と言われるフジフィルムはどういったタイプの写真家が選ぶのでありましようか？

品行方正で公序良俗を守り、ナチュラルでクリアな作風、自然と環境を愛する人柄の写真家がフジフィルムをセレクトすることが多いように感じますね。しかし、実際のところはどのようなのでしょうか？

を
す
る

そうとうエグい機能をこっそり搭載してたりするんじゃないのか？ 清楚にみえて実はとんでもねえ……おっと失礼しました。このようにややゲスい勘ぐりを含んでX-H1を手に入れましたところ……このクリアな存在感、そしてクッキリとした透明感にズッキンドキンでありました。これまでのフジフィルムのミラーレス機にしてはやや大きめの存在感のあるボディは細部に至るまで高品質さが滲み、独立したISOダイヤルには拡張低感度を表すLにはじまりISO200からISO12800までと拡張高感度HとISOオートが解り易く、反対側のシャッター速度のダイヤルと合わせ、カメラの状態が瞬時に把握できる明瞭な操作性。そのうえさ

デジタルな最新設備だけじゃなくてよ



何と申しますか、こういう血の通った景色がおじさんのココロを穏やかにしてくれるのです。なんのボタンも押さずひとりで現在のISO感度が解る安堵感。ボタンを↓、もう一度↓、今度は隣の階層へ……なんていまましい操作はなるべくさくたいオーパーフォーティな写真家に向けてのホスピタリティに感謝。

らにたっぷりとしたグリップの上のサブ液晶により手にしたカメラの情報が常にわかるというこの安心感。撮影中に遭遇するさまざまな制約によるストレスにさらされていると、思わぬ凡ミスをしがちですが、X-H1のインターフェースはそのリスクを極めて低くすることに成功しているのです。

さらに初のボディ内5軸ブレ補正による安定力はXシリーズ随一という実力。約2430万画素のAPS-CサイズX-Trans CMOS IIIセンサー、新たに採用されたリーフスプリング式スイッチの繊細なフェザータッチシャッターボタン。従来に比べ厚みを25%アップしたマグネシウム合金ボディは、高精度かつ強固なボディを実現。ボディ塗装にもこだわり表面硬度8H相当として防塵、防滴、耐低温仕様。

まさに自然と風景写真を愛するカメラマンにとってこのタフさは福音。そしてフジフィルムよりオススメのレンズであるXF56mm F1.2 R APDで一枚撮ってみれば、そのあまりの切れ味に絶句。このボケの美しさよ。節度あるクリック感の絞りリングは開放F1.2までを示しておりますが、APDフィルターによる減光を差し引くと実効的F値はF1.7。この差し引きの値がボケの美しさに現れるというAPDフィルターなのですが、F1.4時には実効F1.8、F4時にはF4.2と実効値が赤字で同記され、この数字の差が大きいほどボケが美しくAPDフィルターの効果が強く発揮されるのです。このAFレンズとしては世界初のアポダイゼーションフィルター搭載のXF56mm F1.2 R APDで世にも美しいアウトフォーカスとカッチリした描写の両立をぜひ楽しんでいただけたらと思います。

さて、カリカリの単焦点レンズだけではなく便利なズームレンズも欲しい！ というヒト向けにフジノンレンズXF16-55mmF2.8 R LM WRでキマリです。35mm判換算では24mmから84mm相当をカバーするこのレンズ、標準ズームクラスではみなさま長らくお待たせしておりました全域F2.8ズームのフラッグシップモデルです。つべこべ言わずに標準ズームはコレに決めましょう。

さまざまな映像のプロたちの使用を見据えたタフで多彩なX-H1。Xシステムの新たな新機軸と言えるカメラでありました。

どうぞみなさんもX-H1でバリュー・フロム・イノベーション！

通向けにバッテリー、マシマシ。



別売りのパワーブースターグリップVPB-XH1を使用すれば、ボディ内部に1個、グリップ内に2個、合計3個のバッテリーで運用が可能。撮影枚数は最大約900枚に増加し、ボディと同じく防塵防滴耐低温仕様。複数のバッテリーで駆動させるブーストモードでは連写性能が向上し、シャッタータイムラグなどの短縮も可能。またグリップ自体に充電機能を備えACアダプターにより2個のバッテリーを約2時間で充電することができる。



写真と文 織本知之
あたくしもフェイスブックやツイッターなんぞやってるアケですが、どうも最近は食傷気味というか飽き気味まったくとじつもコイツもスマホでべったりとした写真撮りやがって……なんて思ってたときこの今回のフジノンXF56mm F1.2 R APDの強力なボケ味はインスタ映えますぜ！ しかしそれにはまずインスタってヤツを……。

富士フィルム X-H1



有効画素数約2430万画素
X-Trans CMOS IIIセンサー
ISO100-51200
ボディ内手ブレ補正
0.5型有機ELディスプレイ採用
3方向チルト式タッチパネル付きTFTカラー液晶モニター
フィルムシミュレーションモード搭載
ボディ幅約139.8×高さ97.3×厚み85.5mm
本体質量約673g(バッテリー及びメモリーカード含む)
©フジフィルム 050-3786-1060

カメラは気配り目配り思いやり



ユーザーフレンドリーなフジフィルムならではのサービスが同梱の高品位なストラップ。幅広くクッション性が高く、重量のある大口徑のレンズを装着したボディを掲げても首肩に負担がかりにくい配慮がニクイ。

こんなレンズに恋しちゃう



APDフィルターにより輪郭が柔らかく美しいボケ味の表現に成功した、大口徑の単焦点中望遠レンズ。35mm判換算85mm相当の焦点レンジとF1.2の開放値が、モチーフとの絶妙な距離感と空気感を極上。AFレンズとしては世界初のアポダイゼーションフィルターを搭載し滑らかなグラデーションのある「ボケ」を実現。APDフィルターは開放側で効果を発揮するために、明るい環境下でもAPDフィルターを活かせるように3段階の減光が可能なNDフィルターも同梱。